『子ども達の素敵な育ちや姿、園生活を身近に』プロジェクト2023　実施報告書

実施期間	2023年4月～2024年3月		実施対象日	行事毎及び通常保育日
実施先	施設名	帝釈天附属ルンビニー幼稚園		
	所在地	東京都葛飾区柴又７－１０－３０		
	担当者	早崎園長、望月事務長、クラス担任		
	連絡先	03-3657-3613		
参加人数 2023年4月基準	園児		幼稚園職員	
	3歳児	36人	教員	18人
	4歳児	32人	事務員	2人
	5歳児	26人	用務員	1人
	計	94人	計	21人
実施内容	日頃の保育風景を発信し、子ども達の素敵な育ちや姿、園生活で大切にしていることなどを届ける。			
	園内活動連絡を主として面前報告しているが、極力密集時間を削減するために保育ふりかえり及び翌日準備内容を動画にてネット配信を図る。			
	濃厚接触自宅待機などで、登園出来ない園児に対して、体操や楽器演奏などの実技動画や登園復帰しやすくするためお準備動画の配信にて保育の維持を継続的に行う。			
	例年、園内にて「母の会」と称して、保護者へ児童保育の説明や家庭内保育での相談などを行っていたが、密集を避けるために専門講師の動画配信や専用アプリで招集した意見に対応する。			
	コロナ感染回避を念頭に、ご高齢の保護者両親および体調不良・単身赴任などの保護者へ運動会・発表会などを自宅で観覧できるライブ配信を行い、児童のやる気を促して、各家庭で配信録画された動画を基に家族コミュニケーションを図っていただく。			

写真など

「1足ずつ履こう！」と自分で決めた今日の靴

子どもの「自分で決めたい（やりたい）」という気持ちを
大切にし、「できた！」という自己充実感が意欲や自己肯定感を育てる
と思います。子どもの抱くその気持ちや行動を保育者は、
あたたかく受けとめ大切に丁寧に育てていきたいと思います。
#自己充実感#自己肯定感の育ち#自主性を育てる
#自我の芽生え#満３歳児保育#子育て広場#大切にしたいこと
#帝釈天附属ルンビニー幼稚園#子育て応援

令和５年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和６年　３月２５日

宗）題経寺　ルンビニー幼稚園

1. 本園の教育目標

・ 自分と自分以外の人の心と身体を大切にできる子ども（丈夫な身体）
（みほとけにいだかれて丈夫な身体になりましょう）

・ 人との触れ合いが大好きで、素直で優しい子ども（素直な子ども）
（みほとけにいだかれて 素直な心になりましょう）

・ 自ら進んで様々な活動に参加し、いきいきした子ども（楽しい暮らし）
（みほとけにいだかれて 今日も楽しく暮らしましょう）

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

【重点目標】
① 帝釈天附属幼稚園としての存在意義を深める
② 一人一人の子どもの情操教育を大切にして、質の高い教育の実践を目指す
③ 園内生活を通して協同自主の精神及び善良な生活習慣を養う
④ 異年齢との交流を交わし、子ども達の心の成長を助長する

【計画】
① 職員研修の実施、研修報告・発表と情報の共有
② 園児の成長に合わせて、様々な活動を実施
③ 親子で参加できるイベントの実施、保護者ボランティアによる環境整備

3. 評価項目の取り組み状況・達成結果の評価

評価　(A･･･十分に成果があった B･･･成果があった C･･･少し成果があった D･･･成果がなかった)

	自己評価		学校関係者評価委員会	
評価項目	評価	反省と改善点	評価	意見
帝釈天附属幼稚園としての存在意義を深める	B	・子ども達への園行事説明は出来ていたが、コロナ禍で行事に参加する機会が減ってしまった保護者に対して宗教的行事（花まつり・成道会など）の説明が不足していた。 ・ホームページなどで予め園行事（特に宗教的行事）に関しては説明文を入れるなど工夫をしていきたい。	A	・お寺の幼稚園としての行事が独特でとても楽しかった。お稚児行列や門前をこぞうくんと一緒に歩く行事などは他の幼稚園にない日本文化を体験できた。 ・行事の意義や歴史などが詳しく開示されれば良かった。
一人一人の子どもの情操教育を大切にして、質の高い教育の実践を目指す	A	・担当学年の担任と補助職員の話し合いの時間を計画的に設け、共有した情報を元に一人一人の成長を感じて子どもへの理解を深めたつもりだが、担任と補助職員で同じ対応が出来ない事があった。 ・個々の行動を大切にし、そこからグループ行動へ移すことを職員で再確認する。それぞれの学年に合わせて、個々とグループについて見直し、対応する意義を共有して確認できる環境をつくる。	A	・行事に休んだ子どもへ応援動画を頂いたり、一人一人を大切にした極め細かい保育がなされ、今後も園の成長を見守っていきたい。 ・年齢や発達に応じた幼児教育を提供していただき、物事に対してを自分で工夫しながらすることは、一人一人の個性を育てる機会となると考える。
園内生活を通して協同自主の精神及び善良な生活習慣を養う	B	・カプラを設置したことで、継続して楽しんでいる。ダイナミックな作品を作り上げた年長生が率先して、クラスで協力してよりダイナミックな作品を作り上げることができた。それを見たり見てもらったりすることが、更なる自信や意欲につながった。 ・チューリップや野菜の栽培では、球根や苗を植えた後の世話が十分にできなかった。また、準備や片付けも他人任せとなっている。計画的な取り組みができるように、見直しが必要である。	A	・お知らせアプリで楽しそうに子ども達が自己表現できる豊かな環境で生活している様子がみられた。 ・十分な量と時間があることで、発想が広がり、大勢を巻き込んだ活動となったと感じた ・動画などで他学年活動の様子や作品を自由に見ることができる環境にあり、更なる興味や意欲へとつながっていったと考える。

異年齢との交流を交わし、子ども達の心の成長を助長する	B	・年度初めはコロナ禍の保育ということで、園庭で遊ぶ時間を分散した。その結果、異年齢のかかわりが少なくなってしまった。 ・２学期頃からお店屋ごっこなどの異年齢交流の行事を増やしていたが、保護者の理解を得ながら異年齢との合同食事会なども復活させていきたい。	B	・子どもだけではなく、保護者の絆もとても深まる場所であり、子ども中心に園づくりがされている様子で園の温かさを実感できた。 ・他学年の動画も観られる環境なので、自分の子どもも同様な対応がされれば良いなと思う時もありました。
コミュニケーション	A	・保護者との共有理解を深めるため、アプリ連絡網からコロナ禍前のテラス連絡へ戻した。 ・アンケートを紙からWebへ切り替えたことによって、保護者は楽にアクセス出来るようになった。また、職員間の共通理解も取れるようになった。 ・映像・動画などで子ども達の様子を観ることで、保育現状を確認できる事で保護者の安心感を満たすことが出来た。	A	・テラス連絡はダイレクトに先生の言葉が聞くことが出来て良かった。ただ、以前の動画連絡で翌日用意するものなどを繰り返し見ることが出来たのは便利だったことを先生へ伝えると、お知らせアプリで翌日用意するものをメール配信対応して頂けたのが感謝です。 ・行事中にライブ配信を観ることは出来ないが、後日ユーチューブで見返せることが出来、自分の子しか映っていない動画だと全体が分かりずらいので、幼稚園のライブ配信録画があると全体図が観えて良かった。

4. 総合的な評価結果

評価　(A･･･十分に成果があった B･･･成果があった C･･･少し成果があった D･･･成果がなかった)

評価	理　由
B	・今年度５月よりコロナ感染症が５類になったので、コロナ禍で見直していた園行事を元に戻す１年であった。保育や行事の在り方について再検討し精査してきたことで生まれた新しい取り組みと元からの取り組みの良い点を混ぜ合わせたことが子どもの成長につながっていったと考える。 ・コロナの影響により控えめな行動を取りがちであった子ども達を元の活発な活動へ促し、それに対応している子ども達の姿があった。子ども達の成長発達に驚き、更なる理解を深め、担当職員で情報を共有していた。個々の理解を深めることがグループを理解することにもつながり、時期や年代に合わせたクラス運営につながっていったと考えられる。 ・子どもに合わせた保育環境の整備をしてきたことは評価できる。今後も継続していただきたい。 ・園の特色であるダイナミック保育を実践できていた。そのことが、子どもに良い影響をもたらしていると考えられる。 ・コロナ禍で課題となっていた保護者とのコミュニケーションのため、お知らせシステムや動画配信体制を構築し、より良い関係づくりで出来ている。

5. 今後取り組む課題

・園の教育目標を達成するための更なる教育課程の見直しを進めていく。

・共有媒体として導入したシステムを最大限に利用し、園児一人一人の理解を深めながら、学年やクラス運営についても職員間の情報を共有しながら保育を進めていく。

・勉学としての研修ではなく、生きた保育に活用できる研修を推し進めていく。

・保育者の働き方改革という点での業務の見直しを継続し、効率よい情報共有システムを使いながら保育の推進を推し進め、職員自身の意識改革を進めていく。

・職員のメンタルヘルス対策を継続して進める